

# 「No.1カンパニー」に向けた第一三共の取組み

---

2011年9月22日(木)

代表取締役社長 兼 CEO 中山 讓治



第一三共株式会社

## 基幹事業の維持・拡大

### 日本

#### ・国内イノベーション医薬品事業の強化・拡大

- メモリー<sup>®</sup>
- リクシアナ<sup>®</sup>
- ネキシウム<sup>®</sup>

#### ・OTC、ワクチン、 エスタブリッシュト 医薬品事業の 強化・拡大

### 欧米

#### ・Effient<sup>®</sup>/Efient<sup>®</sup> の最大化

#### ・オルメサルタン フランチャイズの 維持・強化

## 新興国における 取組み強化

#### ・インドにおける更なる 事業成長

#### ・中国での事業成長の 加速

## 研究開発領域の 集中と強化

#### ・癌領域の強化

#### ・エドキサバンの開発の 着実な推進

## ランバクシー

#### ・米国食品医薬品庁(FDA)/米国司法省(DOJ)から 指摘された問題の解決

## 業務運営効率の向上

#### ・業務プロセス改革 (Business Process Reengineering)



NMDA受容体拮抗 アルツハイマー型認知症治療剤 メモリー®

➔ 【効能・効果】

中等度及び高度アルツハイマー型認知症における認知症症状の進行抑制

➔ コリンエステラーゼ阻害薬とは異なる作用機序

➔ 2011年6月8日 発売

➔ 第1四半期(4-6月)売上：22億円 7月以降も順調に推移



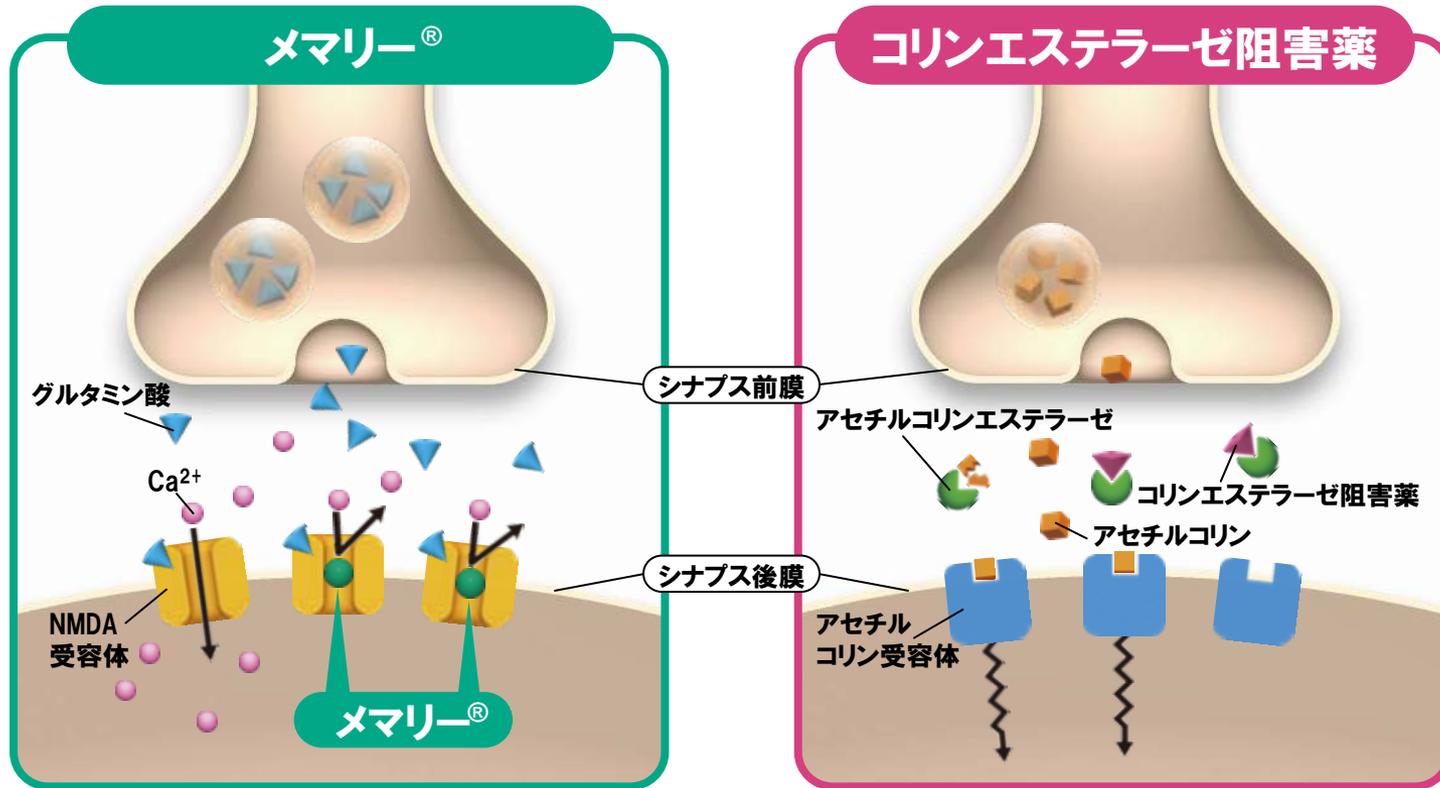
取り戻したいのは、穏やかな日常  
守りたいのは、記憶の絆

NMDA受容体拮抗 アルツハイマー型認知症治療剤  
**メモリー錠** 5mg 10mg 20mg **新発売**

創薬、処方せん医薬品：注意 - 医師等の処方せんにより使用すること  
一般名 / メマンチン塩酸塩 **薬価基準収載**

製造販売元 (資料請求先) 第一三共株式会社  
東京都中央区日本橋本町3-5-1

提携  
メルツ ファーマシューティカルズ



メモリー®は、NMDA受容体拮抗作用により、過剰なNMDA受容体の活性化を抑制します。

コリンエステラーゼ阻害薬は、アセチルコリンエステラーゼを阻害することにより、アセチルコリンの分解を抑制します。

経口FXa阻害剤 リクシアナ®

- ➔ 日本で初めての経口FXa阻害剤
- ➔ 下肢整形外科手術領域における血栓塞栓症予防の新しい選択肢

- ➔ 2011年7月19日 発売
- ➔ 病院市場における順調な採用

➔ 世界で初めて、エドキサバンを発売

VTE:術後血栓症予防



AF:心房細動の血栓塞栓症予防  
/グローバルPhase3試験



VTE: DVT/PE患者の血栓塞栓症予防  
/グローバルPhase3試験



DVT:深部静脈血栓症、PE:肺塞栓症

プロトンポンプ阻害剤 ネキシウム®

- ➔ 2011年9月15日 発売
- ➔ 世界で最も販売実績のあるPPI（プロトンポンプ阻害剤）
  - ・ 優れた酸分泌抑制効果を有するPPI
  - ・ 全世界120ヶ国以上、10億人を超える臨床経験
  - ・ グローバル売上 80億ドルを超えるブロックバスター



最強のコラボレーション  
(第一三共 + アストラゼネカ)

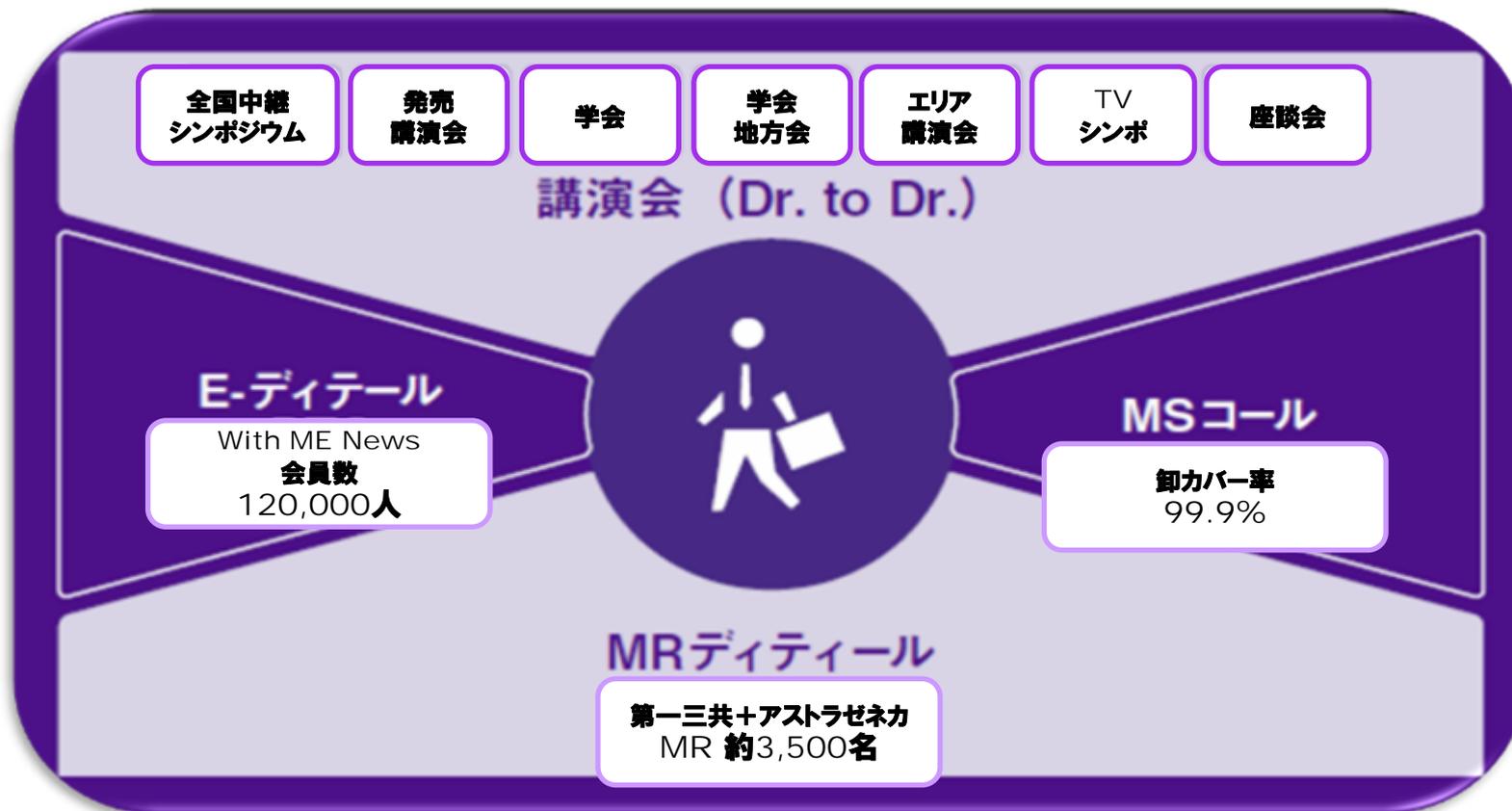
容易な製品の差別化

圧倒的なプロモーション活動

優れた効果  
世界No.1の販売実績

他社を上回るディテール数  
最大規模のプロモーションミクス

- ➔ アストラゼネカとの強力なコラボレーションにより、PPI市場における最大規模のリソースを投入したプロモーションミクスを展開
- ➔ 早期にNo.1 PPIの実現を目指す

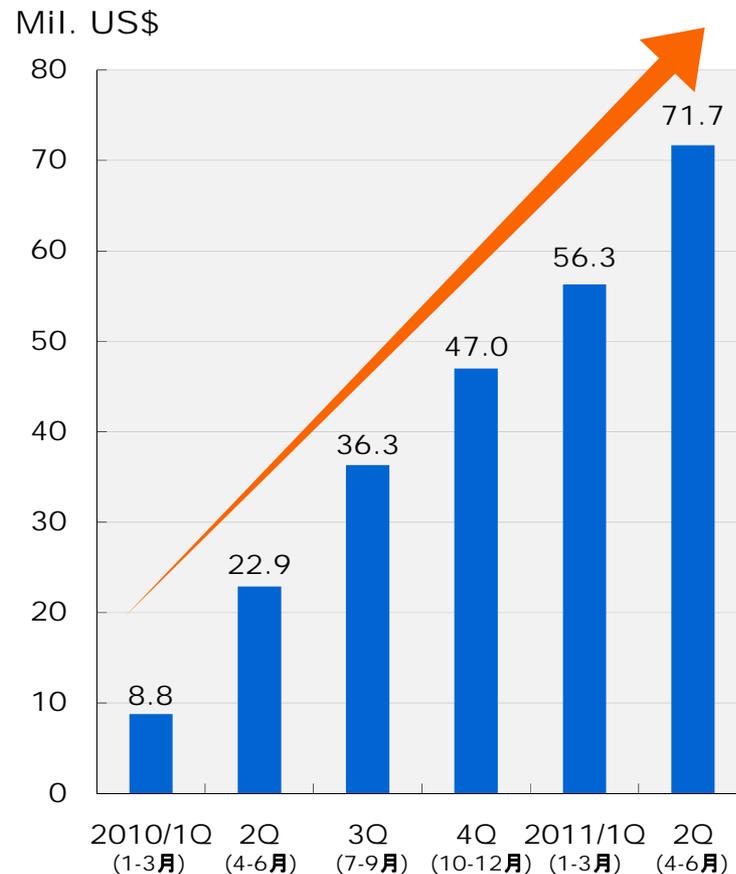


## Effient<sup>®</sup>/Efient<sup>®</sup> の売上拡大

- ➔ 2009年発売：欧州(3月)、米国(8月)
- ➔ 2010年10月：販売戦略の大幅な見直しによる販売強化
- ➔ 追加適応取得による更なる拡大
  - TRILOGY試験の状況  
⇒2012年4月試験終了に向け、順調に進捗



## Effient<sup>®</sup>/Efient<sup>®</sup> グローバル売上



\*イーライリリーの発表ベース

## 学会評価

- ESCがUA\*/NSTEMI\*\*への使用ガイドライン(Class I)への組み入れと使用を推奨 (2011年8月)
- ACC/AHA学会がSTEMI\*\*\*、UA/NSTEMIへの使用ガイドラインへの組み入れと使用を推奨 (2011年3月)

## 販促施策

- 営業要員の配置シフト変更 (2010年10月)  
専門病院(PCIセンター)やKOLへの集中的プロモーションの実施。  
院内フォーミュラーと治療プロトコルへの組み入れ促進。
- ハイリスクACS-PCI患者への効果的メッセージの発信

## 競合環境

- 抗血小板療法における競合薬のノンレスポonderに関する認知向上

\* UA (unstable angina) : 不安定狭心症

\*\* NSTEMI (non-ST elevation myocardial infarction) : 非ST上昇心筋梗塞

\*\*\* STEMI (ST elevation myocardial infarction) : ST上昇心筋梗塞

- ✓ **米国食品医薬品庁(FDA)/米国司法省(DOJ)から指摘された問題の解決**
- ✓ **米国におけるアトルバスタチンのFTF品の発売**
- ✓ **第一三共グループとランバクシーグループの協業の推進**
- ✓ **インドにおける更なる事業成長**

## インドでの事業拡大

目覚ましい成長を続けるインド市場での確固たる地位を確立し、市場の伸びを上回る成長率を確保

市場予測推定: 2009年 \$12.6 Bn から 2020年には \$35~70 Bn CAGR 10~17%

## ランバクシーによるプロジェクト の推進

- 営業体制の拡充: 3,200名(2009年) ⇒ 4,200名(2011年)体制へ
- 製品ラインアップの拡充
- 既存の基盤強化
  - 都市部での事業展開の一層の強化、急性期疾患領域への入力強化
- 成長余力を有するセグメントへの展開強化
  - 地方への事業拡大、病院市場への展開、慢性期疾患領域への展開

## インド市場の伸びを上回る ランバクシーの成長率

2011年 1月-3月 市場成長率 13.6% ランバクシー成長率 17.3%

出典: IMS SSA Audit

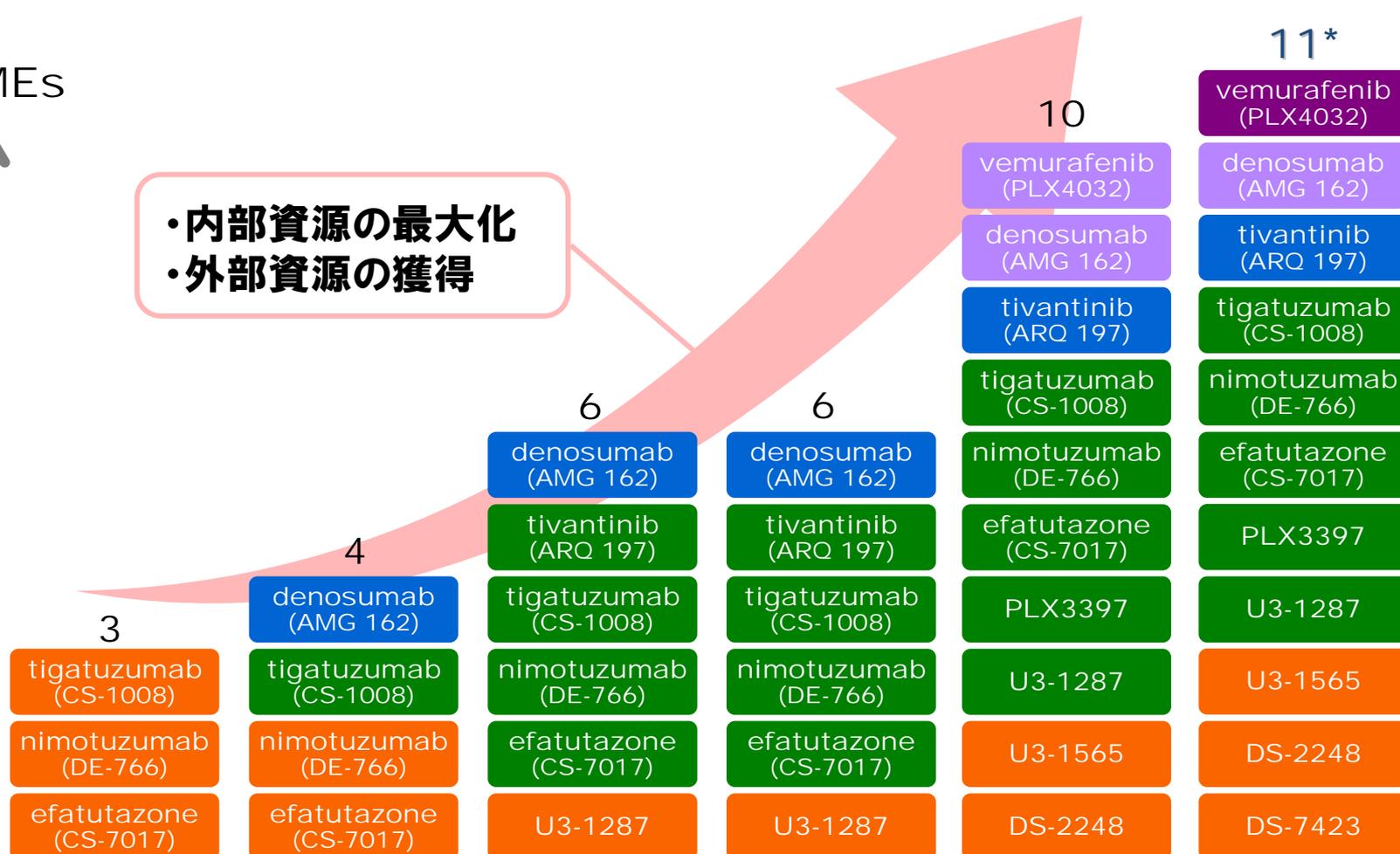


領域	Phase 1	Phase 2	Phase 3	承認申請中
循環代謝	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CS-3150 (高血圧症治療剤)</li> <li>■ DS-7309 (糖尿病治療剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DU-176b(米/欧) (エドキサバン/静脈血栓塞栓(術後)/経口FXa阻害剤)</li> <li>■ CS-747(日) (プラスグレル/脳梗塞/抗血小板剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DU-176b(米/欧/日/亜) (エドキサバン/AF/経口FXa阻害剤)</li> <li>■ DU-176b(米/欧/日/亜) (エドキサバン/VTE/経口FXa阻害剤)</li> <li>■ CS-747(米/欧/亜) (プラスグレル/ACS-MM/抗血小板剤)</li> <li>■ CS-747(日) (プラスグレル/ACS-PCI/抗血小板剤)</li> </ul>	
癌	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CS-7017(日/亜) (efatutazone/PPAR<math>\gamma</math>活性化剤)</li> <li>■ U3-1565(米/日) (抗HB-EGF抗体)</li> <li>■ U3-1287(日) (抗HER3抗体)</li> <li>■ DS-2248(米) (Hsp90阻害剤)</li> <li>■ DS-7423(米) (PI3K/mTOR阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ U3-1287(米/欧) (抗HER3抗体)</li> <li>■ CS-1008(米/欧/日/亜) (tigatuzumab/抗DR5抗体)</li> <li>■ CS-7017(米/欧) (efatutazone/PPAR<math>\gamma</math>活性化剤)</li> <li>■ DE-766(日) (ニモツズマブ/抗EGFR抗体)</li> <li>■ PLX3397(米) (Fms/Kit/Flt3-ITD阻害剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ARQ 197(米/欧) (tivantinib/非小細胞肺癌/c-Met 阻害剤)</li> <li>■ AMG 162(日) (デノスマブ/乳癌補助療法/抗RANKL抗体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ PLX4032(米) (vemurafenib/メラノーマ/BRAF阻害剤)</li> <li>■ PLX4032(欧) (vemurafenib/メラノーマ/BRAF阻害剤)</li> <li>■ AMG 162(日) (デノスマブ/癌骨転移/抗RANKL抗体)</li> </ul>
感染症	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CS-8958(米/欧) (ラニナミビル/抗インフルエンザ/ピオタと共同開発)</li> <li>■ CS-4771 (敗血症治療剤)</li> <li>■ DS-8587 (広域抗菌剤)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CS-8958(日) (ラニナミビル/抗インフルエンザ(予防)/ノイラミニダーゼ阻害剤)</li> </ul>	
骨・関節	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ PLX5622 (関節リウマチ治療剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ AMG 162(日) (デノスマブ/関節リウマチ/抗RANKL抗体)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ AMG 162(日) (デノスマブ/骨粗鬆症/抗RANKL抗体)</li> </ul>	
免疫・アレルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ CS-0777 (免疫抑制剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ SUN13834(米) (キマーゼ阻害剤)</li> </ul>		
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ DS-5565 (慢性疼痛治療剤)</li> <li>■ SUN13837 (脊髄損傷治療剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ SUN11031(米/欧) (ヒトグレリン/COPDカヘキシア)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ SUN11031(日) (ヒトグレリン/神経性食欲不振症)</li> <li>■ DD-723-B(日) (ペルフルブタン/前立腺癌・乳腺腫瘍の造影/超音波造影剤)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ KMD-3213(中国) (シロドシン/排尿障害改善/<math>\alpha</math>1A受容体選択的拮抗剤)</li> </ul>

\* 2011年8月現在

NMEs

・内部資源の最大化  
・外部資源の獲得



- 承認取得
- 承認申請
- Phase 3
- Phase 2
- Phase 1

★ Denosumab 導入

★ U3ファーマ買収  
★ ARQ 197導入

★ Plexxikon買収

開発品目	概要	ステータス
<p>Zelboraf™ (Vemurafenib, PLX4032)</p> <p><i>BRAF阻害剤</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ロシュと共同開発</li> <li>製品売上はロシュに計上し、ロシュよりロイヤリティーを受領</li> <li>米国においてはジェネンテックとのコ・プロモーションを実施</li> <li>転移性の悪性黒色腫(メラノーマ)治療剤として、2011年4月に米国で、同年5月に欧州で申請し、米国にて8月に承認を取得、発売</li> </ul>	<p>米国 2011年8月 発売</p> <p>欧州 2011年5月 申請</p>
<p>Denosumab (AMG 162)</p> <p><i>抗RANKL抗体</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アムジェンより日本国内での開発・商業化権を取得</li> <li>癌骨転移による骨病変の治療薬として、アストラゼネカとコ・プロモーション契約を締結</li> </ul>	<p>2010年8月 申請</p>
<p>Tivantinib (ARQ 197)</p> <p><i>c-MET阻害剤</i></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ArQule社と共同開発</li> <li>日本、中国(香港含む)、韓国、台湾を除く全世界での共同開発・商業化権を取得</li> <li>非小細胞肺癌を目標適応としたPhase3試験を実施中</li> </ul>	<p>Phase 3</p>

## 目的

- ➔ 外部委託業務の内製化による、グループ外へのキャッシュアウトの抑制
  - ➔ 機能子会社の拡充 業務の移管および集約化
    - 「第一三共ビジネスアソシエ」の拡充
    - 「第一三共RDアソシエ」→ 新会社「第一三共RDノバーレ」へと改組・拡充
  - ➔ 社内リソースの最適な再配置
- ➔ 2013年度までに最大100億円/年の経費圧縮を目標とする。

## 対象業務

- 管理業務  
(人事系業務、購買業務、経理・決算・税務関連業務、研究開発部門 管理業務 等)
- 研究開発業務  
(開発業務、安全性情報業務、新薬候補物質の機能や生産の検証業務 等)

➔ 2011年10月以降、順次業務を移管する予定

**本資料に関するお問い合わせ先**

**第一三共株式会社  
コーポレートコミュニケーション部**

**TEL: 03-6225-1125 (株主・投資家専用電話)**

**本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。**